

付属資料 2 専門技能習得の年次ごとの到達目標

各項目について、専攻医が何年目までに到達すべきかを示す。

●は当該年次までに到達することを目標とする項目。

Ⅲ. 診断基本手技

一般目標：運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOL に配慮できる	●			
2. 主な身体計測（ROM, 四肢長、四肢周囲径など）ができる	●			
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる	●			
4. 脊椎・脊髄の身体所見がとれ、評価できる	●			
5. 神経学的所見がとれ、評価できる	●			
(1) 徒手筋力テスト（MMT）	●			
(2) 感覚障害の検査	●			
(3) 反射	●			
6. 適切な X 線写真の撮影部位と方向を指示し、読影できる	●			
7. CT の適応を理解し、適切に指示し、読影できる		●		
8. MRI の適応を理解し、造影の要否も含め適切に指示し、判定できる		●		
9. シンチグラフィーの適応を理解し、適切な核種を選択して指示し、判定できる			●	
10. 電気生理学的検査（筋電図、神経伝導速度など）の適応を理解し、実施・判定できる				●
11. 骨量測定の概要を理解し、指示・判定できる			●	
12. 超音波エコー検査の適応を理解し、実施・判定できる				●
13. 侵襲的検査を行う場合、患者・家族に説明し、同意を得ることができる		●		
14. 侵襲的検査施行後の合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる		●		
15. 血液・尿生化学検査の適応を理解し、指示・判定できる		●		
16. 関節造影、脊髄造影の適応を理解し安全に実施できる	●			

付属資料 2 専門技能習得の年次ごとの到達目標

17. 関節液検査、脳脊髄液検査の適応を理解し、実施・判定できる		●		
18. 組織生検の適応と手技を理解し、指導責任者のもとで実施できる		●		
19. 微生物学の基礎を理解し、細菌検査を指示・判定できる		●		
20. 病理標本を検鏡し、正常像と病的組織像の鑑別ができる				●
21. 関節鏡検査の適応を理解し、指導責任者のもとで安全に実施できる				●
22. 日整会各種機能評価判定基準を用いて評価できる		●		

付属資料2 専門技能習得の年次ごとの到達目標

IV.治療基本手技

一般目標：運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目	専攻医 4 年目
1. 薬物療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる	●			
2. 医薬品副作用被害救済制度を知っている	●			
3. 麻薬管理に関する法律を理解し、適切に処方できる	●			
4. 一般外傷を診断し、検査と治療の優先度を評価できる		●		
5. 骨折や脱臼の徒手整復を正しく実施できる		●		
6. ブラッシング、デブリドマンなど基本的創傷処置を正しく実施できる		●		
7. 局所麻酔法を正しく実施できる	●			
8. 伝達麻酔を正しく実施できる		●		
9. 腰椎麻酔を正しく実施できる		●		
10. 硬膜外麻酔を正しく実施できる		●		
11. 全身麻酔の基礎を理解できる		●		
12. 固定法（副子、ギプスなど）の基本と適応を理解し、適切に実施できる		●		
13. 牽引療法の基本と適応を理解し、適切に実施できる		●		
14. 理学療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる				●
15. 運動療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる				●
16. 作業療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる				●
17. 装具療法の基本と適応を理解し、装具や杖を適切に処方できる				●
18. 清潔操作（関節穿刺・注入や直達牽引など）が実施できる	●			
19. 神経ブロックを安全に実施できる			●	
20. 硬膜外ブロックを安全に実施できる			●	
21. 局所解剖に基づいて手術の概要を述べることができる			●	

付属資料2 専門技能習得の年次ごとの到達目標

22. 手術について、患者・家族に説明し、同意を得ることができる		●		
23. 術前の準備(患者と患肢の確認、体位、手洗いなど)を適切に実施できる	●			
24. 運動器の基本的な手術手技(鏡視下手術を含む)に習熟し、実施できる				●
25. 骨移植の種類を理解し、その適応を判断できる			●	
26. バイオマテリアルの種類を理解し、その使用基準を判断できる				●
27. 患者・家族に手術の内容と術後合併症の可能性などを説明できる				●
28. 術後合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる				●
29. 手術記録を適切に作成できる	●			
30. 術後のリハビリテーションを適切に処方できる			●	
31. 在宅医療・社会復帰などにつき、メディカルスタッフなどと協議できる				●